

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## スペイン語の不規則動詞分類

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2004-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮本, 正美, Miyamoto, Masami メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/789">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/789</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# スペイン語の不規則動詞分類

宮 本 正 美

## 1. はじめに

1990年は日本のスペイン語辞書の世界において記憶されるべき年と言える。今日までその語彙数と内容によって最も評価の高い辞書のうちの2冊『西和中辞典』（小学館）と『現代スペイン語辞典』（白水社）がこの年に出版されたからである。さらに今年、日本では、久し振りに新しい「和西辞典」<sup>1</sup>が出版され、スペインでも *REDES Diccionario combinatorio del español contemporáneo*<sup>2</sup> という新機軸の「連語辞書」が出された。そして極めつけは、「西和」、「和西」辞典がとうとう電子辞書に搭載されたことである<sup>3</sup>。

今後、多くの西和辞典（・和西辞典）が電子辞書に搭載されていくであろうから、電子辞書の長所を生かす工夫が必要になってくる<sup>4</sup>。入門・初級者の便宜を考えると、スペイン語動詞が持つ百数個の活用形からその不定詞形

1 Rubio 他『クラウン和西辞典』三省堂。

2 スペイン語の「連語辞書」には、唯一、Boneu (2000) があつた。しかし、見出し語に連語として組み合わされる単語を動詞、形容詞のように品詞別に分類して並べた語彙リスト以上のものではなかった。Bosque y Maldonado (2004) は、それらのリスト以外に、組み合わされる語を詳細な意味グループに分類して、各語の頻度の程度も示しつつ、さらに、多数の例を挙げている。これからの西和辞典、西和辞典にも取り入れるべき新たな視点を提示している点で意義のある辞書になっている。

3 ソニーの電子辞書（コンテンツカード）には『プログレシブ スペイン語辞典』（小学館）、カシオ（内蔵型）とシャープ（コンテンツカード）の電子辞書には「現代スペイン語辞典」と『和西辞典』（共に白水社）が搭載された。

4 村田 (2004) によれば、2001年度から2004年度の間に、電子辞書の販売台数は、110万台から250万台（見込み）へと倍増している。また、村田氏が述べるように、電子辞書の効率的な活用法の指導も必要になるだろう。

(見出し語)に「ジャンプ」できるかどうかは、重要な鍵の一つになる。そのためには、収録されるすべての動詞の全活用形の正確なリストを用意する必要がある。このリストを作成するために<sup>5</sup>、不規則動詞の分類とその活用形を精査すると、実は、辞書間に少なからぬ違いのあることが明らかになった。

活用形分類が辞書によって異なると言っても、1万以上あるスペイン語の動詞の中で、限られた活用パターンの、限られた数の動詞であることは言うまでもない。例えば、語根母音変化動詞(あるいは、語幹母音変化動詞とも呼ばれる) *volver* を「語根の /o/ が /ue/ に変化する」動詞に分類する点で、いずれの辞書の分類も、またその活用形の規定も実質的に同一である。一方、例えば、*predecir* の未来形・過去未来形や、*adecuar* の2重母音 /u a/ の分立・非分立の規定、そしてそれに基づくこれらの動詞の活用形分類には辞書間で大きな違いが見られる。

ここでは、まず辞書間の活用形分類の異同を検討し、違いの明らかな動詞の活用形についてコーパス言語学の立場から頻度調査を行うことで、その活用形をより正確に規定すると同時に、より正確な活用形分類を目指してみたい。

## 2. 不規則動詞の活用形と分類

今回は、規則動詞5,213個、不規則動詞2,575個(と、これらとかなり重複するが、再帰動詞3,108個)から成る動詞リストを用意した。そのうち非再帰の不規則動詞と再帰の不規則動詞から、動詞分類グループの構成員の少ない順に、約1,300個の動詞を取り出して、調査してみた<sup>6</sup>。構成員の少ない分類グループほど特殊なグループで、辞書間の異同の差が大きいと考えられる

5 電子辞書のためにスペイン語動詞の活用形リストを作成したが、そのアルゴリズムと処理手順については、宮本(2004)を参照。

6 構成員の数を調べるために準拠した動詞分類は、西和辞典の中で最も掲載動詞数が多く、また、活用形分類が細かい「西和中辞典」(1990)のものである。

からである。

不規則活用形の分類の照合には、最近の辞書の中で、定評ある5つの西辞書を利用した：

Aca: *Diccionario de la lengua española*, Real Academia Española, 2001.

Gran: *Gran diccionario de uso del español actual*, Aquilino Sánchez, SGEL, 2001.

Seco: *Diccionario del español actual*, Manuel Seco, Andrés Olimpia y Gabino Ramos, 2 vols., Aguilar, 1999.

Sala: *Diccionario Salamanca de la lengua española*, Juan Gutiérrez Cuadrado, Santilla, 1996.

Clave: *Diccionario de uso del español actual Clave*, Concepción Maldonado González, SM, 2002.

ここでは、これら5冊の辞書のうちでその分類が4冊以上の一致を得られない動詞からいくつかを取り上げて、以下に頻度数調査を試みる。調査対象としては、筆者が作成した新聞を中心とする約800メガのテキスト<sup>7</sup>（以下、「宮本新聞コーパス」と呼ぶことにする）、スペイン王立アカデミー（Real Academia Española）が公開しているスペイン語圏で最大のスペイン語コーパス Corpus de Referencia del Español Actual（以下、CREAと略す）、とインターネット上のGoogleの páginas de España を利用する。

今回の調査の範囲で、辞書間に動詞分類に関して明らかな差異、つまり、

---

7 新聞テキストは、CD-ROM版やインターネット経由で、精度の高い大量のデジタルテキストが得られるだけでなく、Bosque y Maldonado (2004) が引用するスペイン辞書学の大家である故 María Moliner 女史の名句、「新聞には生きた言葉、今使用されている言葉が出ている」という意味でも極めて重要な分析対象資料である。

5分の4以上の一致が得られないという差異が見られたのは、次のような項目においてであった：

- a. 過去分詞に異形態をもつかどうか。
- b. 活用形に異形態を認めるかどうか。
- c. 2重母音が分立するか否か。
- d. 語根母音変化か否か。
- e. 欠如動詞 (verbos defectivos) か否か。
- f. 欠如動詞の下位分類が異なるもの。
- g. 活用形語尾が変化を起こすかどうか。
- h. 語義で活用形が異なるか否か。

本稿では、最初の5項目のそれぞれについて、1つあるいは、2つの動詞を取り上げて、述べてみたい。

- a. 過去分詞に異形態をもつ動詞があることはよく知られていて、これも辞書の重要な情報の一つである。例えば、Sala は過去分詞に異形態を持つ動詞に1つの活用形分類を割り当て、17の動詞を挙げている。そして、これらの中には、freír, proveer, refreír, sofreír などのように、異形態を認めるかどうかで意見の分かれる動詞がある。例えば、proveer は、その過去分詞を不規則形の provisto とするか規則形の proveído とするか否かで辞書の記述が異なる：

Aca : leer 類。過去分詞は provisto と proveído。

Clave : leer 類。過去分詞は provisto。

Gran : 注に proveo, proveí, proveeré, provisto を挙げる。

Sala : desproveer 類。過去分詞は proveído / provisto。

Seco : proveer 類。過去分詞 provisto (あるいは proveído) 以外は leer 類と同じ。

Seco は、その例文の中に、(...) puedan ser provistos (...) と (...) no ha proveído (...) という不規則と規則の過去分詞形を挙げているが、Sala はいずれの用例も挙げていない。なお、Aca は、その辞書の方針として用例は挙げない。

proveer の過去分詞は、provisto のみとするのか、それとも provisto と proveído の併用とするのか、後者の場合は、(ほぼ) 同等の併用とするのか、それとも provisto の方が優勢なのかという点が明らかではない。テキスト(コーパス)を検索してみると<sup>8</sup>：

宮本新聞コーパス：provisto/a(s) 530個。

proveído/a(s) 5。

そのうち、完了時制では、provisto 28, proveído 3。

CREA：provisto 334×4/25<sup>9</sup>。

proveído 完了時制で3のみ。

páginas de España：ha provisto 605-<sup>10</sup>/ ha proveído 156-

han provisto 271-/ han proveído 40-

この結果から、proveer の過去分詞は、「provisto(ときに proveído)」と

8 宮本新聞コーパスを検索するスクリプトは、y30104とy20322c.plである。AWKスクリプトy30104については、Miyamoto(2003:105-108)を参照。Perlスクリプトy20322c.plは、末尾のAppendixを参照。

9 CREAとpáginas de Españaの頻度数(がかなり大きい場合)は概数である。CREAやGoogleが表示するテキストの全体をダウンロードして、筆者のコンピュータの中で頻度数の分析処理をしたのではない。それぞれが表示する(概数の)頻度数と、表示される画面のテキストから目視で頻度数を数えた。「334×4/25」というのは、CREAの挙げるprovistoの頻度数334のうち、実数は概ね334×4/25であろうという意味である。なお、CREAも特に断らない限り、スペインのテキストのみの頻度数を、ここでは使用する。

10 「ha provisto 605-」はGoogleの挙げる605がもともと概数であることを示している。つまり、実際には、1割ほど少ないだろうということの意味している。検索キーワードによっては、表示テキストに、カタルーニャ語、ガリシア語、イタリア語、ポルトガル語、英語など外国語が(多く)含まれることがある、それが問題になる場合は、その旨指摘する。

辞書の活用表には表示したい。

b. 活用形に異形態を認めるかどうかの問題になる動詞グループの1つに、*predecir* のグループがある。*contradecir*, *desdecir*, *entrededir*, *interdecir*, *predecir*, *rededir* などが含まれる。*predecir* に関する5つの辞書の記述は以下の通りである：

Aca : *decir* 類。命令形 *predice* 以外は *decir* に同じ。

従って、未来形は *prediré*,...; 過去未来形は *prediría*,...

Clave : *predecir* 類。未来形は *predeciré* あるいは *prediré*,...;

過去未来形は *predeciría* あるいは *prediría*,...

命令形は *predí* もある。

Gran : *prediré* を注に挙げる。

Sala : *predecir* 類。但し、未来形、過去未来形は載せていない。

命令形は *predice*。

Seco : *predecir* 類。未来形は *predeciré*,... (まれに *prediré*,...);

過去未来形は *predeciría*,... (まれに *prediría*,...)

命令形は *predice*。

*predecir* は、*decir* に接頭辞 *pre-* が付いた語形なので、不規則動詞 *decir* にならって、未来形、過去未来形がそれぞれ、不規則形の *prediré*, *prediría* なのか、それとも、*bendecir*, *maldecir* のように、未来形、過去未来形は、規則形の *predeciré*, *predeciría* なのか、あるいはそれらが (ほぼ) 同等に併用されているのか、それともいずれかが優勢なのかが問題になる。

宮本新聞コーパス：規則未来形は *predecirá* 2 のみ。不規則未来形は

ゼロ。過去未来形はいずれもゼロ。

CREA : 規則未来形は *predecirá* 2 のみ, 不規則未来形はゼロ。過去未来形はいずれもゼロ。

*páginas de España*: 規則未来形は *predecirá* など177。不規則未来形は7<sup>11</sup>。

規則過去未来形は *predecirá* と *predecirían* 99。

不規則過去未来形は *prediría*<sup>12</sup> と *predirían* 4。

従って, テキスト(コーパス)調査に, Seco の記述も勘案すれば, *predecir* の未来形, 過去未来形は, それぞれ「*predeciré,...* (まれに, *prediré,...*); *predeciría,...* (まれに *prediría,...*)」とするのがよいだろう。そして, *decir* 類に含めるのではなく, *predecir* 類のような別の分類が必要である。

c. 語根から語尾にかけての2重母音,あるいは,語根中の2重母音が分立するかどうか問題になる動詞の中にも,辞書の記述が異なるものが, *adecuar*, *anticuar*, *licuar*, *paliar*, *repatriar* や, *arcaizar*, *uropeizar*, *homogeneizar* などいくつもある。例えば,語根から語尾にかけての2重母音が問題となる *adecuar* については,

Aca : *actuar* 類と *averiguar* 類のように活用する。

つまり, /úa/ に分立する不規則活用も, 分立しない規則活用もある。

Clave : *actuar* 類, あるいは, u にアクセントはいっさい付かない。

つまり, 不規則あるいは規則活用である。

11 1つあった *prediré* は, 活用形を論じる文章の中に挙がっている語形なのでカウントしなかった。このように, 文法(説明の文)書中で語形説明などに用いられている活用形はカウントしていない。

12 *prediría* は, カタルーニャ語のテキストに現われる。



Gran : u にアクセントがくることもあれば、こないこともあると述べて、*adecuo* あるいは *adecúo* を挙げる。

Sala : 活用については言及なく、*adecua* の例が挙げられているので、*/ua/* が分立しない規則活用としているものと考えられる。

Seco : *averiguar* 類, 準教養語(*semiculto*) では *actuar* 類だとする。例文には、*adecua* が挙げられている。

つまり、標準では規則、準教養語では不規則。

辞書的には、*/úa/* のように分立する不規則形と分立しない規則形が併用されているということになるだろう。テキスト (コーパス) では、

宮本新聞コーパス : *adecúan* と *adecúen* 36。

*adecuan* と *adecuen* 25。

CREA : *adecúan* と *adecúen* 14。

*adecuan* と *adecuen* 35。

*páginas de España* : *adecúan* 9700- ×9/36。

*adecuan*<sup>13</sup> 9700- ×27/36。

宮本新聞コーパスと、CREA/*páginas de España* の分立型と非分立型の優勢度が逆転しているので、いずれが優勢かの判断は避けるとしても、*adecuar* は、*/úa/* のように分立する不規則活用形と、分立しない規則活用形が併用されていることは間違いない。このように、*/ua/* の分立・非分立の併用が *anticuar*, *evacuar*, *licuar* などの動詞にも明らかに見られるので、例えば、*adecuar* 類として1つの分類を立てることが考えられる。

13 *páginas de España* では、母音上のアクセントなどが無視されている場合があるので、例えば、*adecuan* を数える場合は、その文脈に母音上のアクセント符号や、エニエなどが現われている場合だけをカウントした。もし、そのような配慮をしなければ、*adecuan* の *adecúan* に対する比率はさらに高くなる。

語根中の2重母音が分立するかどうかの動詞としては, europeizar をチェックしてみよう。

Aca : descafeinar 類で, /ei/ が分立する不規則活用。

Clave : enraizar 類で, /ei/ が分立する不規則活用。

Gran : 活用形への言及なし。/ei/ が分立しない規則活用としているものと考えられる。

Sala : 活用形への言及なし。同じ /ei/ を含む homogeneizar は /ei/ が分立する動詞として分類していることから, europeizar は /ei/ が分立しない規則活用としているものと考えられる。

Seco : enraizar, aullar 類で, /ei/ が分立する不規則活用。例文中に, europeíza を挙げている。

辞書的には, /ei/ の分立と非分立に関して記述が対立している。テキスト (コーパス) では,

宮本新聞コーパス : europeíza など /ei/ が分立した不規則活用形はゼロ。/ei/ が分立しない規則活用形は europeizan 1 のみ。

CREA : europeíce 2 のみ。  
europeizan 1 のみ。

páginas de España : europeíza など /ei/ が分立した不規則活用形 15。  
europeiza など /ei/ が分立しない規則活用形 12。

テキスト (コーパス) のデータは十分とはいいがたいが, 辞書の記述も勘案すると, europeizar は, /eí/ のように分立する不規則活用形と分立しない規則活用形が併用されていると見るのが妥当だろう。このような語根中の

2重母音の分立・非分立の併用が、他にも、arcaizar, judaizarなどの動詞に見られるから、europeizar類という分類を考えることも可能である。

d. 母音の分立の問題を扱ったので、語根母音が変化するか否かも考えてみよう。この変化の有無が問題になる動詞も、clocar, enclocar, desaforar, engrosarや abnegar, derrengar, desasosegar など、いくつかあるが、ここでは、語根母音 /o/ が /ue/ に変化するかどうかの問題になる engrosarを取り上げることにする。

Aca : contar 類。つまり、/ue/ に変化する。

Clave : contar 類。但し、規則活用もある。

Gran : 不規則として、engrueso を挙げる。

Sala : 活用形への言及なし。例文の中に、engrosa を挙げている。

Seco : 規則あるいは、まれに、acordar 類、つまり、ue の変化もあるとする。

engrosar は、語形成的には、en+grueso+ar という「併置総合」(parasíntesis) による派生語と考えられるので、/o/ が /ue/ に変化するという記述は十分語学的に説得力がありそうである。しかし、テキスト(コーパス)の調査では、

宮本新聞コーパス : /ue/ が変化する不規則活用形は engruesa 2 のみ。

engrosan, engrosen など規則活用形 97。

CREA : 不規則活用形は engruesa 3 のみ。

engrosa, engrosen など規則活用形 42。

páginas de España : 不規則活用形 251-

規則活用形 2760-

基本語だけを対象とする Bosque y Maldonado (2004) にも engrosar が収録されている。3 頁 (pp.923-925) も割かれ、多くの例文が挙げられているが、engrosan のような規則活用形が 7 例あるのに対し、engruesa のような不規則の活用形例は皆無である。

従って、engrosar は「規則活用 (まれに、語根母音変化することもある)」という記述が妥当であろう。文法家が語の形態分析に惑わされる例かも知れない。

e. 欠如動詞 (verbos defectivos) か否かも辞書によって差異の見られる分類の一つである。この種の動詞としては、blandir, compungir, descolorir, soler, transgredir, trasgredir などが挙げられるが、ここでは、transgredir をチェックしてみよう：

Aca : 以前は欠如動詞として用いられたが、活用のすべての形にその用法を広げてきた。

Clave : abolir 類、つまり、活用形 (desinencia) に /i/ が現われる形だけが用いられる欠如動詞。例には、不定詞 transgredir を挙げる。

Gran : 活用形への言及はない。例文には、transgrede と transgredir を挙げているので、規則活用としていると考えられる。

Sala : abolir 類、例文には、haber transgredido を挙げる。

Seco : 活用形への言及はない。普通、語基が弱勢である形でのみ用いられると述べながら、例文には、transgredían 以外に transgreden を挙げていることから、規則活用と見ていると考えられる。

この transgredir は、Clave と Sala、さらには、Santiago (1999:75.7.4.4)

も abolir 類の欠如動詞に分類しているが、テキスト (コーパス) の調査では、  
官本新聞コーパス: /i/ が現われる活用形のうち, transgredir 112。

transgredido 32 (このうち, 28が完了時制で)。

/i/ が現われない活用形では, transgrede, transgreda など 72。

CREA: /i/ が現われる活用形のうち, transgredir 81, transgredido 32 (このうち, 25が完了時制で)。

/i/ が現われない活用形では, transgrede, transgredan など 44。

páginas de España: /i/ が現われる活用形のうち, transgredir 3990-transgredido 588- (このうち, ×24/30が完了時制で)。

/i/ が現われない活用形では, transgrede, transgreda など 1975-。

さらに, Bosque y Maldonado (2004: 1765-1766) には, transgredir 26例と transgredido 12例 (うち, 完了時制で10) に対して, transgreda など /i/ の現れない活用形が 9例挙っている。

従って, /i/ が現われる活用形と現われない活用形の比率から見て, transgredir は, Santiago (1999) や Clave, Sala の分類にもかかわらず, abolir 類の欠如動詞ではなく, 規則動詞に分類すべきであろう。

### 3. むすび

以上, 定評ある現代の 5冊の辞書の記述を比較することで, 約1,300の動詞の活用分類の異同を調べてみると, 少なからぬ数の動詞に関して分類上の明らかな不一致のあることが分かった。不一致の起こる可能性が高い分類の

動詞から調査したとはいえ、これは予想以上の数だと言わざるを得ない。従って、定評ある西西辞典であっても、それらの分類をそのまま借用したり、比較対照した辞書の間で一致数の最も多い分類や記述に従うといった安易な判断は避けるべきであろう。幸い、今日では、大量のテキスト（コーパス）を検証することが可能になってきているので、例えば、本稿で行った頻度調査のように、それらを十分に活用することで、活用形のより正確な記述と分類を目指さなければならない。

残りの千数百の不規則動詞、さらには規則動詞すべてにまで、この頻度調査を実施することや、統語問題に関する高垣他（2004）のように大規模なアンケート調査をこの分野でも実現することが今後の課題となるであろう。

参考文献:

- Boneu, Javier (2000): *Diccionario euléxico para expresarse con estilo y rigor*, Juventud.
- Bosque, Ignacio y Violeta Demonte (1999): *Gramática descriptiva de la lengua española*, 3 vols., Espasa Calpe.
- Bosque, Ignacio y Concepción Maldonado González (2004): *REDES Diccionario combinatorio del español contemporáneo*, SM.
- Gutiérrez Cuadrado, Juan (1996): *Diccionario Salamanca de la lengua española*, Santilla.
- Kawaguchi, Yuji, Susumu Zaima, Toshihiro Takagaki, Kohji Shibano & Mayumi Usami (2003): *Proceedings of the First International Conference on Linguistic Informatics*, Tokyo University of Foreign Studies.
- Maldonado, González, Concepción (2002): *Diccionario de uso del español actual Clave*, SM.
- Miyamoto, Masami (2003): "A Formal Analysis of Spanish Adjective Position", Kawaguchi et al, (2003), pp. 93-108.
- 宮本正美 (2004): 電子辞書のための動詞活用形の展開, 関西スペイン語学研究会第272回例会, 神戸市学園都市ユニティ大学共同利用施設。
- 村田 年 (2004): 『電子辞書活用ハンドブック』編集雑感——辞書指導・語彙指導について, 電子辞書研究会第1回大会, 早稲田大学。
- Real Academia Española (2001): *Diccionario de la lengua española*.

- Rubio, Carlos, 上田博人, Antonio Ruiz Tinoco, 崎山 昭 (2004): 『クラウン和西辞典』, 三省堂。
- Sánchez, Aquilino (2001): *Gran diccionario de uso del español actual*, SGEL.
- Santiago, Alcoba (1999): “La flexión verbal”, Bosque y Demonte (1999), pp. 4915-4991.
- Seco, Manuel, Olimpia Andrés, y Gabino Ramos (1999): *Diccionario del español actual*, 2 vols., Aguilar.
- 高垣敏博, 上田博人, 宮本正美, 福嶋教隆, アントニオ・ルイズ・ティノコ (2004): 『スペイン語文法課題の検索データベース』, 科学研究費補助金 (平成13—15年) 研究成果報告書。

Appendix : 頻度数調査のスク립ト : y20322c.pl:

```

#!/usr/bin/perl
#
# 名称 : y20322c.pl
# 機能 : [キーワード] (群) の (前後も含めて) パターン頻度数を表示する。
#
# 書式 : y20322c.pl 1 acms 0 2 対象ファイル
#
# 解説 : y30104 などの検索スク립トの出力ファイル(は, キーワードが[ ]
#         で囲まれている) の, 1つ以上の [キーワード] (群) の (その前後
#         も含めて) パターン頻度数を表示する。
#         第1引数 : [キーワード] が1つなら, 1
#                   [キーワード] が2つ以上なら, 2
#         第2引数 : a は [キーワード] (群) の後 (aT0) の語 (群) の記号
#                   を削除する。
#                   aがなければ記号を削除しない。
#         第2引数 : m は [キーワード] (群) の前 (mAE) の語 (群) の記号
#                   を削除する。
#                   mがなければ記号を削除しない。
#         第2引数 : s は [キーワード] (群) それ (sORE) 自身の記号を削除
#                   する。
#                   sがなければ記号を削除しない。
#         第2引数 : c は [キーワード] (群) (とその前後) の大文字を小文
#                   字化する。
#                   cがなければ小文字化しない。
#                   acms をどれも付けない場合は, acms 以外の文字か記号を
#                   書く。
#         第3引数 : 最初の [キーワード] の前の語数
#         第4引数 : 最後の [キーワード] の後の語数
#         第5引数 : 対象ファイル名
#
#####

```

```

$uno_dos = shift(@ARGV);
$opcion = shift(@ARGV);
$pre = shift(@ARGV);
$pos = shift(@ARGV);
while (<>) {
    chomp;
    @x = split;

    if($uno_dos == "2") {

        for ($i=0; $i <= $#x-1; $i++) {
            if (($x[$i] =~ "\\[" && ($x[$i] =~ "\\]"))) {
                $saisyo = $i;
                last;
            }
        }
        for ($j = $#x; $j >= $saisyo + 1; $j--) {
            if (($x[$j] =~ "\\[" && ($x[$j] =~ "\\]"))) {

                $saigo = $j;
                last;
            }
        }
        $frase = '';
        for ($k = $saisyo; $k <= $saigo; $k++) {
            $frase = $frase . ' ' . $x[$k];
        }
        $s = "[\\[\\]]", $frase =~ s/$s//g;
        if ($opcion =~ 's') {
            $s = "[^a-zA-Z0-9' \\ \" ]", $frase =~ s/$s//g;
        }
        $pre_frase = '';
        if ($saisyo - $pre > 0) {
            for ($p = $saisyo - $pre; $p <= $saisyo - 1; $p++) {
                $pre_frase = $pre_frase . ' ' . $x[$p];
            }
        }
        else {
            for ($p = 0; $p <= $saisyo - 2; $p++) {
                $pre_frase = $pre_frase . ' ' . $x[$p];
            }
        }
        if ($opcion =~ 'm') {
            $s = "[^a-zA-Z0-9' \\ \" ]", $pre_frase =~ s/$s//g;
        }
        $pos_frase = '';
        if ($saigo + $pos <= $#x) {
            for ($n = $saigo + 1; $n <= $saigo + $pos; $n++) {
                $pos_frase = $pos_frase . ' ' . $x[$n];
            }
        }
        else {
            for ($n = $saigo + 1; $n <= $#x; $n++) {

```



```

        $pos_frase = $pos_frase . ' ' . $x[$n];
    }
}
if ($opcion =~ 'a') {
    $s = "[^a-zA-Z0-9'\ \"~^ ]", $pos_frase =~ s/$s//g;
}
$total_frase = $pre_frase . ' ' . $frase . ' ' . $pos_frase;
if ($opcion =~ 'c') {
    $total_frase = lc ($total_frase);
}
$y{$total_frase}++;
}
if($suno_dos == "1") {
    for ($i = 0; $i <= $#x-1; $i++) {
        if (($x[$i] =~ "\\[" && ($x[$i] =~ "\\]")) {
            $saisyo = $i;
            last;
        }
    }
    $frase = $x[$i];
    $s = "[\\[\\]]", $frase =~ s/$s//g;
    if ($opcion =~ 's') {
        $s = "[^a-zA-Z0-9'\ \"~^ ]", $frase =~ s/$s//g;
    }
    $pre_frase = '';
    if ($saisyo - $pre > 0) {
        for ($p = $saisyo - $pre; $p <= $saisyo - 1; $p++) {
            $pre_frase = $pre_frase . ' ' . $x[$p];
        }
    }
    else {
        for ($p = 0; $p <= $saisyo - 2; $p++) {
            $pre_frase = $pre_frase . ' ' . $x[$p];
        }
    }
    if ($opcion =~ 'm') {
        $s = "[^a-zA-Z0-9'\ \"~^ ]", $pre_frase =~ s/$s//g;
    }
    $pos_frase = '';
    if ($saisyo + $pos <= $#x) {
        for ($n = $saisyo + 1; $n <= $saisyo + $pos; $n++) {
            $pos_frase = $pos_frase . ' ' . $x[$n];
        }
    }
    else {
        for ($n = $saisyo + 1; $n <= $#x; $n++) {
            $pos_frase = $pos_frase . ' ' . $x[$n];
        }
    }
}
if ($opcion =~ 'a') {
    $s = "[^a-zA-Z0-9'\ \"~^ ]", $pre_frase =~ s/$s//g;
}

```

```
$total_frase = $pre_frase . ' ' . $frase . ' ' . $pos_frase;
if ($opcion =~ 'c') {
$total_frase = lc ($total_frase);
}
$y{$total_frase} ++;
}
}
foreach $w (keys %y) {
print "$y{$w}$w\n";
}
```